

山梨県総合計画審議会第1回基盤部会 会議録

1 日 時 平成21年1月28日(水) 午後2時～4時

2 場 所 古名屋ホテル「ルンブラン」

3 出席者

・ 委 員 (50音順、敬称略)

天沼 操	市川 三千雄	井上 勲	入倉 修	金井 博
久保 眞一	小池 とし子	三枝 清	清水 純子	白川 太
新藤 久和	内藤 悦次	中込 裕	長谷川 正一郎	堀内 光一郎
渡邊 真弓				

・ 県 側

知事政策局長 企画部長 観光部長 県土整備部長
(事務局：知事政策局) 政策参事 政策主幹

4 傍聴者等の数 3人

5 会議次第

- (1) 開会
- (2) 部会長あいさつ
- (3) 知事政策局長あいさつ
- (4) 議事
- (5) 閉会

6 会議に付した議題 (すべて公開)

- (1) 各分野の今後の施策について
- (2) その他

7 議事の概要

- (1) 各分野の今後の施策について

事務局から資料1の当部会の担当事務について、また、各部局長等から資料2の「VIむすぶ・やまなし」の2事業について説明した後、次のとおり意見交換を行った。

(委員)

「むすぶ・やまなし」の計画を進めるなかで、見直すべきことや疑問が出てきたなど、マイナス面の部分はあるか。

(県土整備部長)

「チャレンジ山梨行動計画」は始まったばかりで、まだそういうものは出てきてない。もちろん、社会情勢の変化によっては、見直すべきところは見直すものと考えており、

ユニバーサルデザインや景観などに力を入れていきたいと考えている。

(委員)

現状に関しては理解した。今後、経済事情も変わっていく中で、変えなければいけないという部分は、勇気を持って変えていただきたい。

「山梨のみちづくりビジョン（素案）」を見せていただいたが、山梨県がどういう県を目指しているか、どういう文化を継承していきたいのかが明確には見えてこない。

非常に総花的になっているので、ぜひ優先順位を付けて、この山梨をどうしていくのか、そのためには何を優先してやっていくのかという形に作り替えをしていった方がよいと思う。

(委員)

資料を拝見すると、非常に綿密に検討されているが、先ほどの意見のように、世の中が非常に大きく変わろうとしている中、継続性が求められるものと、修正しなければならないもの、新たにやらなければならないもの、いろいろなものが出てくると思う。

問題は副作用を含めて、できるだけデメリットを最小化するような努力をしつつメリットを増やすような、そういう方向を県民全体が理解できるような形で示していただくということだと思う。地元の人達の多様な意見もくみ上げた上で、みんなが納得できる形で進めていくような姿勢が見えないと、ちょっとした考え方の行き違いで、大変な問題に発展しかねないと心配している。

また、長い目で見れば道路の整備は、やはり必要と思う。問題は、渋滞解消とか直接的なことだけではなく、道路の整備をすることで、いかに山梨のビジョンを達成していくかである。その結び付きをもう少し資料で示していただくと、県民の皆さんも大変協力的にやってもらえると思う。

(県土整備部長)

道路整備は、非常に長期間かかる事業なので、事業を進める前にはいろいろ説明はしているが、事業をやり始めると説明責任を果たしていないのではないか、という御指摘には、十分留意していきたい。

(委員)

最近「説明責任」という言葉が非常に簡単に使われている。確かに説明するということは必要だが、一般の人が、例えばこれだけの資料を見て、県で整備しようとしている全体像をどの程度理解できるかについては非常に疑問。住民の理解を得るために、実務で頑張らなければならない人達が、説明だけに時間を割いてしまうということは、ある意味で非常に効率が悪い。説明をすることは非常に大事なことだが、説明しても分からないことを時間をかけ説明するという格好だけになるのは、絶対にマイナスなこと。ポイントだけ説明し、それ以上分からないことというのは、やむを得ないのではないか。

論語の中に「民はこれによらしむべし、知らしむべからず」という言葉があり、何でもオープンにすることは、本当の意味での情報公開とか民主的な活動につながっていくかということ、やはり無責任に言うだけで、誰も責任をとらないという方向にも行きかねない。一般的に知りたいと思う情報は出していただき、細かい部分というのは、専門家

に任せる方がよいと思う。

(委員)

何か一つ事業をしようとする時は、財政状況をまず第一に考え、次に何が一番優先しなければならないかという選択をするわけだが、人命にかかわることを最優先に行っている。

本町では、一番優先したのは学校の耐震化であり、小学校 6 校、中学校 4 校の 10 校を平成 21 年度にすべて完了することを最優先とした。基盤整備という面では、道路整備は非常に重要な部分で、必要なことだと思うが、財政状況と財政計画との兼ね合いで、基本的な部分は進めていくということにしている。

(委員)

二点質問をさせて頂く。まず鉄道であるが、東京方面で仕事をするうえで、鉄道をよく使うが、中央線では大体 45 分ぐらい携帯電話が通じない区域がある。トンネルの中なので、当たり前といえば当たり前だが、不感地域のあるのは山梨だけ。埼玉、群馬や千葉に対して非常にハンデを負っている。既に県でも交渉されていると思うが、もう少し情報やアクセスの面でも何かできないのか。

次に、朝 9 時前に東京に入りたいと思っても、甲府からだの特急がなく、どうしても前泊となり、当然宿泊の経費がかかるハンデがあるので、何らかの検討や働きかけをしていただきたい。

(企画部長)

携帯電話の不感地域については、中央線には長いトンネルがあり非常につながりにくいという状況。県では、中央線の輸送量が年間 900 万人近くあるなどを考慮し、国に対し要望活動を展開してきたところ、在来線の携帯不感解消を年次計画でやっていくという方向が固まった。

中央線は古いトンネルもあり、貨物も走っているのもので、工事の時間帯が夜中の大体 3 時間から 4 時間しかないという状況なので若干時間がかかと思うが、今後とも国、JR、携帯電話事業者に対し利便性の向上について強力的に働きかけを行う。

二点目の、9 時前に東京駅との話だが、知事を先頭にして、早朝東京に到着でき、夜遅く東京から帰れるよう要望活動をしている。しかしながら、JR 東日本でも、車両問題や運転手の問題等もあり、非常に厳しい状況だが、長野県とも一緒になり、JR 東日本に対して中央東線の利便性の向上について強力的に働きかけを行う。

(委員)

先ほど基盤整備には、メリットとデメリットがあることについて発言があった。私は、3 年後、5 年後を見据えて本当に基盤整備が必要かどうかということが、ちょっと疑問である。基盤整備については本当に必要なだけけれども、その裏返しのものもいっぱいある。

最近「見える化」という視点で、この道路の整備の意味を住民に知らしめる取り組みは、非常に分かりやすくいいと思う。「見える化」をすることにより、道路整備時の渋滞が多くなっても、運転する人は少しは我慢できると思う。

あと、リニアモーターカーについて、東京都が2016年のオリンピック招致に手を挙げているが、東京・山梨間だけでも先行して早くリニアモーターカーを走らせて 1 試合でも山梨でオリンピックができれば、世界に誇れる技術を世界に向けて発信できるチャンスになると思う。

(委員)

「見える化」では、プロセスの後、今どういう状況になっているかということを実科学的にきちっと管理していくことが必要。実態を表すデータを示し、それがどういうふうに変化しているかとかいうことを考え、できるだけ問題を早く見つけて改善していくことが必要。一方で難しいのは、目的は非常に段階的にあり、道路をつくるにしても、渋滞を解消するのも一つの目的だが、そのさらに上に、そこに住んでいる人たちが非常に幸せになるというのが最終目標。結果的にどういうふうにして表すかということが難しい。批判的に見ている人たちからすると、渋滞解消という当面の目標はクリアできたけれども、最終の目標はどこかにいったという雰囲気になっていると思う。

私が申し上げたいのは、何でも説明する必要はないが、住民が関心を持っているところは、現状をデータで示すということ。何を目指してやっていくかということが示せば、大概の人は納得して協力してくれると思う。「見える化」により、最後に目指すものとの関係を住民に提示するのが、やはり一番大事。

(委員)

「山梨の道づくりビジョン」の説明を聞いて、計画どおりに山梨県内の道が整備されたとき、誰が幸せになるのか考えていた。

短時間にいろんなところに行けるというのはとても魅力的だと思うが、郊外の道を整備して、県外にも素早く行けるということは、何を目的として、誰が幸せになるために、どんなビジョンがあってそういうふうにしたのかということが伝わってこない。

道路を整備して県外に短い時間で行けるようになると、安心した医療が受けられるようになるのか。この山梨で早く県外に出られるということが、安心して暮らせる街づくりになるのか疑問。

また、道というのは巨額の建設費用と維持費もかかる。私たちが安心して老後を過ごしたいと思うときに、県予算の中で何に優先的に投資していくかという議論がされていないのではないのか。

(県土整備部長)

この骨格道路の整備は、委員ご指摘の医療に関して言えば、アクセス時間が短くなれば医療サービスに寄与するもので、非常に重要なことだと思う。また、交流人口という部分を考えたときにも、骨格道路の整備は色々な分野の基礎となっていると考えている

(委員)

山梨の魅力という中で、知事が言われるように、企業誘致は非常に重点課題であり、山梨ではどうしても車でしか移動できない状況を考えてインフラ整備は必要である。

我々とする「チャレンジ山梨行動計画」については、非常に素晴らしいビジョンだと思っており、スピードを上げてやっていただきたい。

(委員)

以前から、東京都との一体化の中で、「東京の 24 区・山梨」ということを言ってきた。東京の田舎とか、東京の田園という位置付けで山梨をもっと PR したらいいのでは。

今まで、企業の方に山梨への企業移転について聞いたところ、行政が全然サポートしていないと、だから山梨は魅力ないよという意見であった。また、医療関係や教育を含めていろいろな面で山梨は遅い。

「東京の田舎」という位置付けで、わたしはぜひ山梨がもっともっと PR をやってもらいたいと思う。

今は、企業の悲観論ばかり多いが、京都の経済界は今非常に元気があるので、県も京都の経済界を狙って PR していただきたいと思う。

(委員)

昨日、県の社会資本整備検討委員会があり、一体このビジョンはいつの時代のことを目指して作成したのかという質問が出たところ、10 年後、おおむね県民人口 90 万を想定してこのビジョンをつくったとのこと。

今日改めてこの資料をもう一度見直したところ、委員からの想定される質問については全部書いてある。いずれにしても、たたき台がなければ物事は進まない、ここはあくまでも基盤部会なので、基盤部会としてはこれで十分いい資料をつくってくれたなと思っている。

環境はどうかというのは別の委員会で検討することであり、そこで検討していただき、最後に擦り合わせて出していただくということで、知事に提言すればよいと思う。基盤部会としてはこの資料をたたき台として議論していただければいい。

(委員)

リニア中央新幹線が出ると、本当に山梨の地図や構造が変わると思う。リニアの駅が山梨に出る出ないとかの問題もありますが、世界中の人が富士山を目掛けて来ておりますので、世界の人々の駅として、富士山の下にリニア中央新幹線の駅ができればと思う。

(委員)

基盤部会に入りまして、さまざまな専門の方々の意見を今まで聞いてきたが、基盤部会は、住宅環境、都市基盤、交通網、公共交通機関、情報通信、国際交流と多岐にわたる分野の幅広い話になると思う。

例えば道路を整備するに際し、弱者がより弱者にならないための道路整備、車中心から人中心へ、人と車が共生する道路空間としていただきたい。

あと公共の看板についても、今は日本語とローマ字のみだが、英語表記やアジアからの観光客に対して、中国語やハングルの表記の整備について、全体を絡めながら道路整備を進めていくことが基盤部会の中心と思う。

(委員)

モノづくりを通じて日本全国いろんな企業さんとお付き合いする中で、モノをつくること自体に山梨県の企業はものすごくレベルが高いことをしていると思っている。

しかし、山梨の大月市に展示場を開設していたが、アクセスが非常に悪いとのことで、特急の停車本数や、横浜方面・埼玉方面からのアクセスを加味して八王子に展示場を移転した。

実際に大分から来られた方が、大分から東京に来るよりも、東京から大月に来る方が時間がかかるということと言われ、道というのはいろいろ問題があるのかもしれないが、産業的にはかなり期待が持てるものだと思う。

また、非常にスピードが求められる中でモノをつくることが求められており、最近関東経済産業局の中で、長野県中心に、静岡の浜松、新潟、山梨の 4 県で「コリド」という交流会などを開いている。物流の面からも、東西の高速道路だけではなくて、南北の高速道路というものがあると広域な活動ができるのではないかと感じている。

(委員)

交通機関に関しては、不便なところがたくさんあるが、逆に都内に行くにも道路がすいて便利であり、知事が言われたように住みやすい県だなと実感している。

ただ道路建設については、よく考えて自然を壊さないようにしていただきたい。富士山が日本一、日照時間が日本一、ブドウが日本一と、日本一がこんなにいっぱいあるので、そういう資源をもっと大事にした山梨県づくりができたらと思う。

(委員)

皆さんのお話を聞いてみて、道路整備というもの、基盤整備というものはどういうものであるのかということが、皆さん本当に分かっているのかなと思っている。道路も自分達が現在使っていることを理解していただきたい。

先ほど、御意見があったように、今日はこれから 10 年先のことを考えてどうなんだという御提言ですから、今日ここで終わるわけではないので、これからいろいろな議論をしていただいて、将来像を知事に御提言したらいいと思う。

あと、追加資料についても、事前に送付をして頂きたい。

(委員)

よく県外には車で出掛けるが、茨城とかとも、かなり近くなったなと感じている。特に東京の交通が非常に良くなった。今後、身近な県のエリアが広がるということであれば、ビジネスマン的には非常にいいことだなと感じる。

私は、甲府市内に住んでいるが、市街地の渋滞、特に朝と夕方が非常に渋滞が多く感じている。県の方で、できれば各企業とかに、出勤する時間帯をずらすような取り組みを進めていただけるようにしていただきたい。

あと、道路にレールを敷いて、レールのあるところは電車みたいな形の運搬ができ、レールがないところはタイヤで自動車のように走るような乗り物があるようなことを以前見たが、今後の公共交通機関の整備として検討をしていただきたい。

(委員)

富山県のライトレールは、この 3 月視察に行こうかなと思っている。バスなどとの関連性を持たせることで渋滞が避けられ、環境にもいいということなので、その辺を聞いてこようかなと思っている。山梨には、なるべく自然を残したいので、道路を広げるだ

けという観点ではなく、ほかの観点で便利さと環境を融合させるようなことができたらと思う。

(委員)

そろそろまとめなけれと思うが、皆さんの意見を聞いていて自分なりに思ったことがある。私も産業界の代表なので、道路は大事な要件で非常に興味がある。それぞれ皆さんご関心を持っている内容が違って、どうも今日は基盤部会だが、全部の部会に関するような発言が多く出てきてまとめようがないので、議長は、大変だなと思っている。

教育文化とか、安心安全や医療のことを基盤部会でやりだすと、まとまりがつかなくなる。

この委員の割り振りについて、どうやって割り振ったのかについて伺いたい。

(議長)

全員の方から御意見いただきました。何か県側から今までの御意見を受けてお話がありましたらお願いしたい。

(事務局)

先ほど部会の割り振りについての御質問があったが、私どもも委員の先生方の履歴等々を勘案して、できるだけ得意の分野で発言していただきたいということで割り振りをさせて頂いた。また、基盤部会では、大所高所で発言いただけるので、産業界等の方にも入っていただいた。

(知事政策局長)

割り振りについては説明のあったとおり。議長は 1 期目の時にも部会長を努めていただいたので、よくご存じのように 5 部会ある中で、今言ったように基盤部会にかかわる部分は基盤部会としてまとめていただく。

しかしながら、産業や安心安全に関わることについても意見として頂戴し、部会長や部会長代理の委員さんの方との連絡調整をする場で調整をして参る。

(議長)

ありがとうございました。私自身は基盤部会というのはまさに産業にも環境にも、教育にも、安心安全にもすべてにかかわる根幹のところであり、まさに「基盤」、文字どおり基盤部会でありまして、それだけにいろんなものに関わってきていると考えている。皆さんの立場によっては、基盤についてのご意見も違う、だからこういう会議をやる意味があるんだろうと思っている。本当に事務局と県の当局のとりまとめは大変であるが、わたしは今日は、大変いい意見をいただいたなと思う。

そもそも道路が必要なのかという話から始まり、何を目指していくのかという発言もあった。やはりこの部分がしっかりしていないと、建設的かつ有意義な議論ができなくなるだろうと思う。今日ご参加の皆さま方、私もわたしなりの考えを持っているが、自分の考えと違う考えに関しては「おかしいことを言うな」という印象をたぶんお持ちになると思う。しかし、いろいろなお立場で様々な考えがあり、それぞれが意味もあり、真意もある話なので、何故あの方はこういうことをおっしゃったんだろうということを、

今日の部会の後は是非お考えいただきたいと思う。

やはり環境を大事にしなければいけない、それから自然を大事にしなければいけないという方の考えもまさにそのとおりであるだろうし、それから年老いてくると必要ない、じゃあ若い方は山梨県から要らなくなるのかということもあるかもしれない。

産業面で多少触れていったときに、それから観光面で多少触れていったときに、山梨県はどうやって外貨を獲得していき、90万の人口を養っていくのかということもある。非常に自分と価値観とか見方の違う方々のさまざまな意見が出たと思うが、各人で改めて考えていただき、次回につなげていただければと思っている。

(2) その他

事務局から今後の審議日程について説明し、了承を得た。